

## 第2回那覇市総合計画審議会議事録

日時：令和5年2月21日（火）18：00～20：00

場所：那覇市役所6階601会議室

発言者	発言内容
仲地会長	<p>それでは、これより第2回那覇市総合計画審議会を始めます。</p> <p>審議に先立ちまして、本審議会の公開について委員のご了解をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
全員	<p>了承。</p>
仲地会長	<p>本審議会は公開といたします。</p> <p>本日は、はじめに事務局より、前回の審議会で各委員よりご指摘いただいたご意見等を踏まえて、中間検証及び見直し（素案）を修正した内容について説明がございます。</p> <p>その後に、内容について議論を行う予定です。</p> <p>委員の皆様におかれましては、本日も忌憚のないご意見をいただければと存じます。</p> <p>それでは、事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>事務局から第5次那覇市総合計画の中間検証及び見直し（素案）について、前回の指摘事項及び市民意見、事務局修正案を関係課へフィードバックし、調整しながら資料(4)をまとめております。（以下、説明内容は省略）。</p>
仲地会長	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>前回同様、まずは委員の皆様から順番にお一人ずつ、第5次那覇市総合計画の中間検証及び見直し（素案）や事務局説明の内容に対してご意見を伺っていきたいと思います。</p> <p>なお、資料(4)が、前回の素案に対して本審議会の意見、市民の意見、担当課の意見、事務局の意見等を各施策のページに反映させた最新のものとなっていますので、資料(4)を中心に各委員からご発言をお願いしたいと思います。</p>

発言者	発言内容
佐藤副会長	<p>「施策 20 健康危機管理体制が整ったまちをつくる」に関連した指標 49「結核罹患率」を変更しないことについて。結核罹患率という指標がこの施策を代表できるという専門的知見があるのであれば変更しないこともよいかと思いますが、健康危機管理体制という観点から、他に指標の設定ができないかという提案をしました。これからの時代を迎えるにあたり、コロナだけでなく、今後に向けて市として何ができるのか、健康危機管理体制に関する指標があってもいいかと思います。</p>
堤委員	<p>「施策 41 省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進するまちをつくる」において、カーボンニュートラルの表記については日本語として定着していますので、特に変更する必要ありません。</p> <p>「取組の柱と方針」の「4 エネルギー有効利用の認知度を高める」において「Jクレジット制度等を活用したカーボン・オフセットの取組を推進します。」と修正した点について、オフセットの取組だけでいいのか再度検討していただきたいと思います。オフセットというのは、二酸化炭素排出者がカーボンクレジットを購入することで埋め合わせる仕組みです。よって、クレジットを作る側の仕組みも含めた「二酸化炭素排出権取引制度」の方がよいのではないかと思います。ただ、排出権取引という概念を含めてオフセットと呼ぶ考え方もないことはないため、そのところをきちんと整理して検討していただきたい。</p>
下地委員	<p>「施策 30 国際化に対応した観光環境の整備されたまちをつくる」に関して。「取組の柱と方針」の「1 外国人観光客への体制整備」において「英語対応ガイド養成や外国人観光客向けの観光コースを新設するなど、受入れ体制整備を推進します。」と修正した点について、「英語対応ガイド」より「外国語対応ガイド」の方が一般的かと思います。</p> <p>また、担当課への問題提起として。那覇市におけるクルーズ船の受入について市民生活との共存の観点からどのように取り組むかは大きなテーマの一つだと思います。クルーズ船の受入については、総合計画ではなくて個別計画で対応することかもしれませんが、気になる点として指摘しておきたいと思います。</p>

発言者	発言内容
玉城委員	<p>SDGs の各ゴールと第5次那覇市総合計画の各施策の対応表が示されており、指標 136 項目についてもゴール設定がされているので、SDGs のロゴマークを追加してもよいのではないかと思います。</p>
稲垣委員	<p>DXについては、計画全体に跨る未来の視点を補完する「新たな視点」ということで全体に位置付け、それ以外は紐づく各計画、施策において、それぞれ取り組んでいくというバランスで記述をされているということ、それは書きぶりとして統一がされていけばそれでよろしいかなと思っております。</p> <p>ただし、気になるのは、「第5次那覇市総合計画の中間検証及び見直しの方針」に掲げられている「見直しの5つの柱」の一つにデジタル・トランスフォーメーションの推進があり、具体的に、行政サービスの向上、行政の内部事務の効率化、地域課題の解決、新たな価値の創造の4つの項目が挙げられています。行政サービスの向上と行政の内部事務の効率化については、素案の段階で基本計画の施策 57、58 として見直しが行われていますが、地域課題の解決と新たな価値の創造については、基本計画の中で取り上げられていないように見えます。</p>
平田委員	<p>那覇市における子どもを取り巻く環境として、ウェルビーイング関連について、今後記述があっていただきたいと思います。</p> <p>「施策 58 市民満足度の高いサービスの提供をすすめる」においては、コロナ禍、コロナ後、またウイズコロナというところで、これからに向けてDX関連を追記しながら、同時に、市民一人一人が取り残されないというところもウェルビーイングとして記述がされています。</p>
山代委員	<p>先ほどの佐藤副会長の結核罹患率の指標へのご指摘について。那覇市あるいは沖縄県は、全国レベルに比べて結核の罹患者が多いことが問題になっています。</p> <p>指標の基準値として、2016年時点で19.7人とありますが、20人近い数字は先進国ではあり得ない。先進国は10人を下回るところ、やっと2021年に日本全体で10人を下回ったという状況です。なぜ沖縄県で結核の罹患者が多いかというと、実は、結核になりや</p>

発言者	発言内容
	<p>すい方が多い。慢性閉塞性肺疾患や糖尿病、アルコール依存症の患者が多い。このような背景が記述されておらず、唐突に結核罹患率の指標が出てきているため、違和感が生じるのは当然だと思います。ですので、施策 20 の「現状と課題」において追記をすることで、那覇市はこういう問題を持っているということが市民へ伝わるとと思います。結核の対策は、すなわち全般的な健康施策、たばこやアルコールの依存症対策と関わっていることに触れていただいたらよいのかと思います。</p> <p>また、健康危機管理体制に関する指標については、保健所で目標等把握しているのではないかと思いますので、追加するとよいと思います。</p>
仲地会長	<p>今回は、第 5 次総合計画をどう見直すか、ということです。一方で、ウクライナ・台湾有事と国内外の環境が激変する中、今後、平和に関する既存の施策において市が何ができるか、市民が何ができるかという視点を持っていければと思っております。</p> <p>以上、一通り委員の皆様の意見をお聞きしました。</p> <p>残りをご自由に、他の委員の意見に触発されて、或いは資料を見直してみたら、この問題もあったとお気づきになる点がありましたら、ご発言をお願いします。</p>
佐藤副会長	<p>先ほど、山代委員からのご説明で、結核罹患率が施策 20 の代表できる指標であることが分かりました。ありがとうございます。那覇市の状況を追記していただくことで、この指標の意味がよく分かるかと思えます。</p>
下地委員	<p>「施策 57 行政サービスの電子化により市民の利便性を高める組織づくりをすすめる」と「施策 58 市民満足度の高いサービスの提供をすすめる」の 2 施策において、行政 D X の推進について指標の追加はしないとのことですが、理由が少し後ろ向きではないかと思いました。デジタル化が急激に進んでいる一方、デジタル化に弱い皆さんへの対応に関する問題もありますが、行政 D X を本格的に推進した時に、その変化がわかる指標がないというのは少し物足りないのではないかと思います。この辺りは、県外を含めた他自治体等の取組も確認すると、行政 D X の推進の進展がわかるものが設定で</p>

発言者	発言内容
	きるのではないかと思います。
稲垣委員	<p>現在、行政DXについては全国、沖縄県内各自治体で計画作りから進め、走りながら考えているような状況です。デジタル庁からはいろいろな指導・方針等が示されていますが、市町村としては、それを見極めつつ、それぞれの方針を定めていくというようなタイミングであると理解しています。行政DXに関しては、個別の計画として策定が進んでおりますので、そちらでの積極的な内容の策定を望んでおります。</p>
堤委員	<p>指標 84 番「那覇港の取扱貨物量」を変更していますが、空のコンテナを含めた取扱貨物量を指標にしてよいのか気になっております。出て行く空のコンテナ分をどのように評価するのか。または、空のコンテナを含めずに移入・輸入分だけの取扱貨物量を指標にすることはできないのか。今すぐの対応はできないかと思いますが、今後の大きな課題になるかと思いました。</p>
玉城委員	<p>今回、総合計画の各施策とSDGsの各ゴールの紐づけはされましたが、今後の取組が非常に重要です。喫緊の課題について、市民、若者、企業等と一緒にトライアンドエラーの姿勢で取り組んでいくことが大事だと思います。</p> <p>また、那覇市がSDGsのゴール達成に向けて、どのような取組をしているのか、どんどん市民に見せていくと、今回の総合計画が絵に描いた餅にならないのではないかと思います。</p>
佐藤副会長	<p>玉城委員からのお話を受けて、計画策定時や今回の見直しにおいて、大学生や中高校生の参加という視点が抜けていたと思えました。那覇市では、全国的に有名な繁多川公民館や若狭公民館があり、地域の小中学生を巻き込んで様々な活動がされています。今度広めていく段階で、こども達に浸透しているSDGsを切り口にしてもいいですし、工夫できるのではないかと思います。</p>
堤委員	<p>言葉の使い方として、一般名詞と固有名詞の使い分けに気を付けてほしいと思います。</p>
下地委員	<p>那覇市として、外国人への対応という部分をどう考えていくのか</p>

発言者	発言内容
	<p>気になりました。観光で来られる方もいれば、那覇市で滞在し、お仕事をされている方もいます。コロナ禍においては、県内在住外国人の医療体制が遅れていたということがありました。</p> <p>また、特に産業界では人手不足にどう対応するか、というなかで、外国人労働者受入の規制緩和を求める声が非常に強くなっています。</p> <p>総合計画全体を通して、外国人との共生についてももう一度考えていくべきじゃないかと思います。</p>
稲垣委員	<p>下地委員のお話の繋がりでひとつ、国際交流についてももう少し強く打ち出していけるといいなと思いました。民間レベルでの国際交流が下支えになって、平和を築いていくという考え方があると思います。本格的な民間レベルでの国際交流に繋がるような道筋を那覇市が示してくれると心強いなと個人的に思います。</p>
佐藤副会長	<p>若狭地域にはネパールの方が多く住んでいます。若狭公民館では、食事会を開催するなど、地域に住んでいる外国の方達と交流している実践例がありますので、知恵を組み込んでいくとよいと思います。</p>
玉城委員	<p>沖縄市では、コザインターナショナルプラザ（KIP）という外国人支援センターがあり、裁判所や警察への付き添い等を行っています。</p> <p>那覇市においても、在住外国人が安心して暮らして働くことができ、私たちの産業を支える存在になるような政策が大事だと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘のあった文言の修正は検討します。その他、今回、新たに「外国人相談窓口の相談件数」という指標を追加しております。那覇市では、令和2年度から外国人相談窓口を設置しています。現在も通訳士を3名配置し、生活に関する相談や市役所内手続きの通訳等を行っています。</p> <p>国際交流については、コロナ禍の影響で一時中断もありましたが、姉妹・友好都市との交流事業がございます。今後も引き続き、相互訪問等の交流を続けていきます。</p>

発言者	発言内容
	<p>また、前回審議会において、佐藤副会長よりご質問のありました、指標 2「校区まちづくり協議会設立校区数」についてですが、最終目標値が、市内 36 小学校すべてに、校区まちづくり協議会を設置する目標であります。令和 3 年度実績では 14 校区と、コロナ禍の影響を受けて中間目標値を下回っている現状ですが、今後回復すると見込み、最終目標値の修正等はありません。また、令和 5 年度以降に、同協議会に関する新たなビジョンを掲げた方針を策定することも検討しており、最終目標値に近づくよう取り組んでいきます。</p>
佐藤副会長	<p>最終目標値達成に向けて、残り 5 年間であと 22 校区を設立しなければいけないが、全ての小学校区に設立するという目標は掲げたいという意図は理解しています。</p> <p>そこで、今後の準備会の設立見込み数など、最終目標値達成に向けた説明がもう少し追加されるとよいかと思います。</p>
玉城委員	<p>那覇市は市民との協働が強みだと思いますが、指標 5 番「協働大使委嘱者数」について。コロナ禍において推薦者数が伸び悩む傾向にあると記載がありますが、若者や SDG s に組みたい方、または企業など、山のようにいるので市民との協働についても SDG s を意識した巻き込み方を検討していただきたいと思います。</p>

以上